

意見に対する区の考え方

1 意見募集の概要

件名	文京区地球温暖化対策地域推進計画（素案）
意見の募集期間	令和元年12月6日～令和2年1月6日
意見の提出方法	電子メール(8人)、持参(1人)
意見を提出した人数 及び件数	9人 64件

2 ご意見に対する区の考え方

No	いただいた意見（要旨）	件数	区の考え方
1	プラスチックを「燃やすゴミ」として いるのに驚いた。焼却の際、生じる CO2、ダイオキシン、かなりの量にな るのではないか。これからの担う世代 が、プラスチックは燃やすゴミだと理 解してしまう。まずはそこから、とい う気がする。	1	プラスチックごみのうち、ペットボトル等は 資源として循環利用していますが、資源とし て収集していないプラスチックについては、 サーマルリサイクル（焼却・熱回収）処理を しております。区として、プラスチックごみ の減量に向けた取組や啓発を今後も推進し ていきます。
2	クールアース文京都市ビジョンのイ ラストについて、「文京区新エネルギ ー・省エネルギー設備設置助成」の対 象である「家庭用燃料電池」イラスト と文字の追記と、「FCV-BUS」イラス トに、日本語表記「燃料電池バス」の 追記をする。 また、脚注「FCVとは、燃料電池を搭 載した電気自動車のことです」を 「FCVとは、燃料電池を搭載した次世 代自動車のことです」に修正してほし い。	1	ご指摘いただいた事項については、ご指摘の 趣旨を踏まえ対応させていただきます。
3	本計画を通じて、世界で取り組むべき SDGs（持続可能な開発目標）を社会 課題として取り入れ、目標を定め貢献 する姿勢に賛同する。 アクションプラン2「再生可能エネル ギー等の利用促進」については、地球 環境への貢献はもちろん、災害時のエ ネルギーの確保にもつながることか	1	SDGsゴール11「住み続けられるまちづく りを」については、アクションプラン2「再 生可能エネルギー等の利用促進」と関連する 側面もあるものと考えられますが、本計画で は、アクションプラン3「スマートシティの 推進」等と主に関わりが深いものとして位置 づけています。

	ら、SDGs ゴール 11「住み続けられるまちづくりを」を追加することを提案する。		
4	アクションプラン 1「省エネルギーの推進」における区のアクションプラン「省エネルギー設備設置助成」について、各主体の理解を得やすいよう、当事業の正式名称である「新エネルギー・省エネルギー設備設置助成」と記載することを提案する。	1	計画書の記載については、実施事業に限定した表現とはしておらず、ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。
5	アクションプラン 1「省エネルギーの推進」における、次世代自動車に関連する表記が一貫性に欠けていると考える。環境にやさしい自動車の普及に向けて、「次世代自動車」の定義をたとえば「電気自動車、燃料電池自動車等とする」など明記いただきたいと考える。冒頭に脚注として示すとより理解を得やすくなるものと思う。	1	ご指摘いただいた事項については、ご指摘の趣旨を踏まえ対応させていただきます。
6	アクションプラン 1「省エネルギーの推進」について、区有施設における省エネルギーに向けた率先行動として、「改修等の際の、高効率、高性能機器・設備への更新」が挙げられている点に賛同する。その具体的行動として、区有施設の設備更新の際には、災害が増える中で環境面だけでなく防災面にも貢献する「ガス・コージェネレーションシステム」の導入について検討をお願いしたいと考える。当システムは、平成 29 年 3 月に策定された「文京シビックセンター改修基本計画」でも、「防災力を備えつつ、省エネ・エネルギー利用の効率化を推進するガス・コージェネレーションシステムの導入」と示されている。東京都・国からも、当システムの利用拡大が期待されている。	1	ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。

7	<p>アクションプラン1「省エネルギーの推進」における区民・団体のアクションプラン「省エネルギー機器や設備（トップランナー基準達成機器、高効率給湯器・照明器具(LED)等の導入)」について、「新エネルギー・省エネルギー設備や機器（太陽光発電、家庭用燃料電池、蓄電池、トップランナー基準達成機器、高効率給湯器・照明器具(LED)等の導入）」と表記を変更することを提案する。</p> <p>区民・団体が取り組むべき行動として、まずは「文京区新エネルギー・省エネルギー設備設置助成対象機器」の利用を促す記述とすべきではないかと考える。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
8	<p>アクションプラン2「再生可能エネルギー等の利用促進」における、「水素エネルギー利用や燃料電池自動車、災害時に自立したエネルギー供給が可能となる次世代自動車の利活用等」を、「燃料電池など水素エネルギー利用のさらなる推進や、災害時に自立したエネルギー供給が可能となる次世代自動車等の利活用」に変更することを提案する。燃料電池（自動車）は水素エネルギー活用の一例であるため、並列による表記は適切ではないと考える。また、災害時の自立したエネルギー供給は次世代自動車に限らず、たとえばレジリエンス機能付き家庭用燃料電池も可能である。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご指摘の趣旨を踏まえ対応させていただきます。</p>
9	<p>アクションプラン2「再生可能エネルギー等の利用促進」において、「家庭用燃料電池」は水素エネルギーを利用するものであり、本計画においては「再生可能エネルギー利用」ではなく「先進的なエネルギー利用」に区分される</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご指摘の趣旨を踏まえ対応させていただきます。</p>

	<p>ものとする。各主体が正しく理解できるように表記の整理をお願いする。</p> <p>区のアクションプラン「再生可能エネルギー等設備（太陽光発電システム・家庭用燃料電池）設置助成」を「再生可能エネルギー等設備（太陽光発電システム）設置助成とし、「先進的なエネルギー等設備（家庭用燃料電池）設置助成」を追記する。</p> <p>また、区民・団体アクションプラン「住宅等への再生可能エネルギー等設備の導入…」を「住宅等への再生可能エネルギー設備や家庭用燃料電池の導入…」とし、事業者のアクションプラン「再生可能エネルギー等設備の導入」を、「再生可能エネルギーや燃料電池等水素エネルギー設備の導入」とする。</p>		
10	<p>アクションプラン2「再生可能エネルギー等の利用促進」における区民・団体のアクションプラン「次世代自動車と VtoH（電気自動車から住宅に電力を供給するシステム）」を「次世代自動車と Vto（電気自動車や燃料電池自動車等から住宅に電力を供給するシステム）」または「次世代自動車と VtoH（次世代自動車から住宅に電力を供給するシステム）」に修正することを提案する。住宅への電力供給は、電気自動車に限らず燃料電池自動車等も可能であるため、修正していただきたい。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご指摘の趣旨を踏まえ対応させていただきます。</p>
11	<p>アクションプラン3「スマートシティの推進」における「事業者が開発事業等を行う際にはエネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの導入等、環境に配慮したまちづくりを行うことが必要」という表記を「事業者が開発</p>	1	<p>当該文章の意図としては、コージェネレーションシステムの導入やエネルギーの面的利用についても含まれるものと認識しています。</p> <p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>事業等を行う際にはコージェネレーションシステムの導入やエネルギーの面的利用等によるエネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの導入等、環境に配慮したまちづくりを行うことが必要」と効率的なエネルギー利用策について具体的に記すことを提案する。P38 では、具体策として事業者「環境に配慮したまちづくり」に向けて「エネルギーの面的利用」の検討が求められている。エネルギーの面的利用の軸となるのがコージェネレーションシステムである。「東京都環境基本計画 2016 (P26)」では、省エネ対策の1つとして「コージェネレーションシステムなどの分散型電源の導入や地域におけるエネルギーの面的利用」が挙げられ、「都内の業務用コージェネレーションシステムの導入量を 2024 年までに 60 万 kW、2030 年までに 70 万 kW に高める」と当システムの利用拡大が明示されている。さらに、「第五次エネルギー基本計画 (P69)」においても、「コージェネレーションや廃熱等のエネルギーを一定の地域で面的に利用する地産地消型エネルギーの面的利用を推進する」旨記載されている。</p>		
12	<p>アクションプラン 5「気候変動の影響への適応」における事業者のアクションプラン「再生可能エネルギーと蓄電池等の導入、次世代自動車の活用による非常時の電源確保」について「再生可能エネルギーと蓄電池、燃料電池の導入、電気自動車と燃料電池自動車等次世代自動車の活用による非常時の電源確保」に修正することを提案する。</p>	1	<p>当該取組では、燃料電池の活用も考えられるものと認識しておりますが、「蓄電池等」の表現に含めているものです。 ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>停電時にも活用が可能な燃料電池の記載を要望するものである。なお、次世代自動車の定義が明確化された場合は、「電気自動車と燃料電池自動車等」の追記は不要と考える。</p>		
13	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画はページ数がかなりあるので「目次」があったほうがよい。 ・各図、各表については本文の該当する箇所で引用したほうが内容の理解が容易になる。 ・1ページの注釈の2行目「言います」は「いいます」のほうがよい。 ・3ページの16行目「1970年」は「1970（昭和45）年」のほうがよい。他の箇所と同様にする。 ・3ページの17行目「RCP8.5」とは何かについての説明があったほうがよい。 ・3ページの17行目「センチ」は何を意味しているのか？（センチメートル？） ・8ページの2行目「あたり」は「当たり」のほうがよい。他の箇所と同様にする。 ・8ページの「平成27年9月関東・東北豪雨」は「2015年の「平成27年9月関東・東北豪雨」」のほうがよい。時系列の理解が容易になる。 ・14ページの5)の「みどり」と「緑」との字句の違いは、何を意味しているのか。 ・15ページの1行目「前計画」が「2015（平成27）年3月に中間見直した計画」の略称であるのであれば、その旨を記載したほうがよい。 ・40ページの「3R」とは何かについての説明があったほうがよい。 ・52ページの表の指標欄の「シェア 	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご指摘の趣旨を踏まえ対応させていただきます。</p>

	サイクル」は「自転車シェアリング」のほうがよい。36 ページ等の記載にあわせる。		
14	2 ページの 1 の 3 行目「文京区地球温暖化対策地域推進計画」と、1 の 1 5 行目「文京区地球温暖化対策地域推進計画－地方公共団体実行計画（区域施策編）－」とは、何が違うのか。（2010 年に策定した計画に副題「地方公共団体実行計画（区域施策編）」を 2015 年に（または今回の改正で）追記？）	1	同じ計画を示すため、ご指摘の趣旨を踏まえ対応させていただきます。
15	2 ページの図 1 の「RCP2.6」等は何を意味しているのか。	1	RCP は、IPCC 第 5 次評価報告書で評価された研究にも用いられた、温室効果ガスの代表的濃度経路（Representative Concentration Pathways）のことです。 RCP2.6 は温室効果ガス排出が最も低いシナリオ、RCP8.5 は温室効果ガス排出が非常に高く、世界の平均気温上昇が最も大きくなりうるシナリオです。 （環境省ホームページより。 https://www.env.go.jp/press/107008.html ）
16	10 ページの 4 行目「kL」は何の容量を意味しているのか。	1	「kL」は原油換算のエネルギー消費量の単位です。
17	16 ページで「民生（家庭）部門の 1 世帯当たり二酸化炭素排出量は、2005（平成 17）年度以降増減を繰り返しており…」と記載しているが、ほぼ右肩下がりであり、横ばい状態はあるものの、「増減を繰り返して」いる事実はない。「増減」を「繰り返して」いるというのであれば、少なくとも「増減」は 2 回以上なければならないが、図 11 に於いてそのような事実は見て取れない。区民に対して正しい表現で記載すべきであり、現状の記載は誤った印象を区民に与えかねない。	1	ご指摘いただいた事項については、ご指摘の趣旨を踏まえ対応させていただきます。

18	<p>15～16 ページで「前計画の削減目標達成に向けた進捗状況」を記載しているが、これでは 2019 年度の目標に向けて 2016 年度までの進捗度合いとその総括がなく、極めて不十分である。図 10 部門別二酸化炭素排出量の推移を見る限り、2019 年度における削減目標は未達であったことは高い蓋然性をもって推認でき、文京区としては未達であることの蓋然性に言及し、その理由と背景を分析して区民に示し、説明責任を果たすべきである。2019 年度の目標に対し、現時点ではどの程度が見込まれるかを示すべきである。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
19	<p>15～16 ページで「前計画の削減目標達成に向けた進捗状況」を記載しているが、図 11 民生（家庭）部門 1 世帯当たり二酸化炭素排出量とエネルギー消費量の推移を見る限り 2013～16 年度の 3 年間における削減率は 6.67% であり、このペースで次の 3 年間（2016～19 年度）に削減を続けたとしても 2482kg-CO₂/世帯とあり、2019 年度における削減目標（2369kg-CO₂/世帯）は達成できない。こうした統計学上の推計を示した上で、どうして未達となる見通しになったかの総括と分析をすべきであり、総括と分析をしないのは文京区にとっての努力不足を隠すために「不都合な真実」を記載したくないためであると思えない。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
20	<p>15～16 ページで「前計画の削減目標達成に向けた進捗状況」を記載しているが、図 10 部門別二酸化炭素排出量の推移を見る限り、2013～16 年度の 3 年間における削減率は 6.31% であり、このペースで次の 3 年間（2016～19 年</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>度)に削減を続けたとしても1044千t-CO₂となり、2019年度における削減目標(987千t-CO₂)は達成できない。こうした統計学上の推計を示した上で、どうしてこれだけの乖離のある未達となるのかの総括と分析をすべきであり、総括と分析をしないのは文京区にとっての努力不足を隠すために「不都合な真実」を記載したくないためであると思えない。</p>		
21	<p>15～16ページで「前計画の削減目標達成に向けた進捗状況」を記載しているが、図12 民生(業務)部門 床面積100m² 当たり二酸化炭素排出量とエネルギー消費量の推移を見る限り、2013～16年度の3年間における削減率は9.05%であり、このペースで次の3年間(2016～19年度)に削減を続けたとしても8712kg-CO₂/100m²となり、2019年度における削減目標(7516kg-CO₂/100m²)は高い蓋然性をもって達成できなかつたと推認できる。こうした統計学上の推計を示した上で、どうしてこれだけ大きな乖離(13.7%)のある未達となるのかの総括と分析をすべきであり、総括と分析をしないのは文京区にとっての努力不足を隠すために「不都合な真実」を記載したくないためであると思えない。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
22	<p>17～18頁の(3)アクションプラン実施状況で、「庁内CO₂排出量」は、将来の目安を下回る傾向で推移している」と記載しているが、表8 代表指標の推移(アクションプラン実施状況)を見る限り、あと1年(2018～19年度)まであるものの、「将来の目安」との乖離は、2011(平成23)年度排出係</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>数を用いて算出しても約2割あるし、各年度の排出係数を用いて算出しても24.6%もある。これでは旗振り役の執行機関として失格であるし、このような体たらくでは区民も事業者も信頼できなくなる。</p> <p>少なくともどうして旗振り役である執行機関に於いてこのような杜撰でいい加減な対応しか講じられなかったのか、猛省を促すとともに、その原因を分析し、「文の京」自治基本条例の理念に沿って区民に対し、説明責任を果たすべきである。</p>		
23	<p>17～18頁の(3)アクションプラン実施状況で、「区民・団体、事業者ともに「地球温暖化に対する意識向上率」は、横ばい傾向にある」と記載しているが、事実と異なり、文京区に都合よく解釈した印象操作と言わざるを得ない。「区民・団体」の「地球温暖化に対する意識向上率」は2014年度実績の96%から2018年度は91%と5ポイント低下しており、2015年度から16年度にかけて2ポイント上昇したものの、再び下がっている。これは「横ばい傾向」であるというよりも「低下傾向」にあるというべきであり、社会通念上の常識に照らして評価しても「低下傾向」と見る方が自然で合理的である。</p> <p>それを敢えて「横ばい傾向」と記載するのは、文京区にとっての努力不足を隠すために「不都合な真実」を記載したくないためであると思えない。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
24	<p>17～18頁の(3)アクションプラン実施状況で、「区民・団体、事業者ともに「地球温暖化に対する意識向上率」は、横ばい傾向にある」と記載してい</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>るが、事実と異なり、文京区に都合よく解釈した印象操作と言わざるを得ない。「事業者」の「地球温暖化に対する意識向上率」は 2014 年度実績の 92%から 2018 年度は 89%と 3 ポイント低下しており、この間、増減もあり、どう評価・解釈しても「横ばい傾向」にあるとは言い難い。それを敢えて「横ばい傾向」と記載するのは、文京区にとっての努力不足を隠すために「不都合な真実」を記載したくないためであると思えない。</p>		
25	<p>17～18 頁の (3) アクションプラン実施状況で、「区民・団体、事業者ともに「地球温暖化に対する意識向上率」は、横ばい傾向にある」と記載しているが、表 8 代表指標の推移（アクションプラン実施状況）を見る限り、あと 1 年（2018～19 年度）までであるものの、「将来の目安」との乖離は 9 ポイント（区民・団体）、同 11 ポイント（事業者）もあり、実績との差は 2014 年度より広がっている。</p> <p>文京区はどうしてこのような事態に陥ったかを総括・分析したうえで、その結果を区民に示し、説明責任を果たすべきである。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
26	<p>17～18 頁の (3) アクションプラン実施状況で「前計画における「アクションプランに関する代表指標」の結果は以下のとおりです」とし、「1) アクションプランに関する代表指標」の冒頭で「・アクションプランに関する代表指標は、区民・団体、事業者、区それぞれが概ね順調に推移している」と総評しているが、「概ね順調に推移している」とする合理的根拠に乏しく、恣意的で極めてずさんでいい加減な評</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>価と言わざるを得ない。なぜなら、それに続く記載として「将来の目安を上回る傾向で推移している」というものは1つしかない一方、2つの項目に於いて「目安をやや下回っている」「目安を下回る傾向で推移している」とあり、「地球温暖化に対する意識向上率」は、横ばい傾向にある」としているものの事実ではなく、これも実際には目安を下回っているからである。</p> <p>「概ね順調に推移している」というのは文京区の自己都合による自画自賛であって行政として区民の信頼を損なう記載であって、「文の京」自治基本条例の「協働・協治の」理念にも反すると言わざるを得ない。</p>		
27	<p>19 頁の〈文京区環境基本計画の基本理念〉の「3.環境の保全・創造には、区民が健康で安全・快適に暮らし続けられるよう、総合的に取り組みます」は「安心」加え、「3.環境の保全・創造には、区民が健康で安全・安心・快適に暮らし続けられるよう、総合的に取り組みます」と改めるべきである。</p> <p>現状の〈文京区環境基本計画の基本理念〉では文京区に於いて「安心」への関心が無いか薄いとしか映らないし、思えない。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、文京区環境基本計画の改定の際等に参考とさせていただきます。</p>
28	<p>本計画が 2030 年度を目標年度としていることから、2024～25 年度に於いて中間見直しをすべきである。もし、敢えて中間見直しをしないということであれば、その合理的根拠を区民に示し、説明責任を果たすべきである。</p>	1	<p>中間見直しにつきましては、今後進行管理の中で検討していきます。</p>
29	<p>25 頁の (2) 削減目標に於いて、「総量目標 2013 (平成 25) 年度比 削減率 ▲28%」と記載し、あたかも前計画</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>(▲14%) に比べて意欲的な削減率であるかのような印象を区民に与えるが、2016 年度の実績比では▲23.3%であり、前計画に於ける 2019 年度目標比 13.5%減であることも何らかの形で併記すべきである。区民に対し、自主的に多面的・多角的・多様な評価ができるよう、執行機関は恣意的に偏ることなく関連データも示すべきである。</p>		
30	<p>25 頁の (2) 削減目標に於いて、「部門別目標」として「民生 (家庭) 部門 1 世帯当たり ▲794kg-CO2 (削減率 ▲28%)」と記載し、あたかも前計画 (▲612kg-CO2 (削減率 ▲21%) に比べて意欲的な削減率であるかのような印象を区民に与えるが、2016 年度の実績比では▲22.7%であり、前計画に於ける 2019 年度目標比▲13.2%であることも何らかの形で併記すべきである。区民に対し、自主的に多面的・多角的・多様な評価ができるよう、執行機関は恣意的に偏ることなく関連データも示すべきである。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
31	<p>25 頁の (2) 削減目標に於いて、「部門別目標」として「民生 (家庭) 部門 1 世帯当たり ▲794kg-CO2 (削減率 ▲28%)」と記載しているが、削減量と削減率しか記載していない。「総量目標」同様、算出の基礎となる「民生 (家庭) 部門 1 世帯当たり排出量」も記載すべきである。(※「総量目標」のように図示すべきであるとまで主張するものではない)</p>	1	<p>目標値の記載については、前計画と同様とし、ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
32	<p>25 頁の (2) 削減目標に於いて、「部門別目標」として「民生 (業務) 部門 床面積 100m2 当たり ▲3,585kg-CO2(削</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	減率 ▲34%)」と記載し、あたかも前計画（▲2,985kg-CO2/100m2（▲28%））に比べて意欲的な削減率であるかのような印象を区民に与えるが、2016年度の実績比では▲27.5%であり、前計画に於ける2019年度目標比▲7.49%であることも何らかの形で併記すべきである。区民に対し、自主的に多面的・多角的・多様な評価ができるよう、執行機関は恣意的に偏ることなく関連データも示すべきである。		
33	前計画に於いては3つの「理念」を掲げていたにも拘わらず、本計画に於いてどうして「理念」を掲げをやめたのか、その理由を合理的根拠を示しながら丁寧に説明する責任が文京区にはある。どうして「理念」を掲げをやめたのか、記載すべきである。	1	本計画の理念は、区の実践の根本的な姿勢を示すものとして、第1章に記載しています。前計画で理念としていた3項目は、計画の方向性として第4章に記載しています。
34	前計画に於ける3つの「理念」は、本計画に於いては「計画の方向性」と変わったようであるが、なぜ「理念」を掲げをやめ、「計画の方向性」としたのか、本計画内に於いても言及すべきである。「理念」を「計画の方向性」と変えることの合理的メリットはどこにあるのか、逆に合理的デメリットはないのか。文京区はその理由を丁寧に説明する責任がある。	1	本計画の理念は、区の実践の根本的な姿勢を示すものとして、第1章に記載しています。前計画で理念としていた3項目は、計画の方向性として第4章に記載しています。
35	28頁の「1-3 区の率先行動」では「区は、一事業者として、二酸化炭素排出量を削減していく必要があるとともに、区民・団体、事業者の取組をリードする役割を担っています」「そのため、区有施設や、区の事業活動における省エネルギー化や環境配慮に取り	1	「広域連携による再生可能エネルギー利活用の調査・検討」等、区として新しい取組を掲げております。

	<p>組み、二酸化炭素排出量の削減を推進します」と記載しているが、一方で、17～18 頁の (3) アクションプラン実施状況では「区内 CO2 排出量」は、将来の目安を下回る傾向で推移している」とも記載している。</p> <p>「将来の目安」との乖離は、2011 (平成 23) 年度排出係数を用いて算出しても約 2 割あるし、各年度の排出係数を用いて算出しても 24.6% もあり、これでは旗振り役の執行機関として恥ずかしい限りであり、このような状況でどうして「区民・団体、事業者の取組をリードする役割を担っています」と言えるのか理解に苦しむ。</p> <p>文京区が本当に「区民・団体、事業者の取組をリードする役割を担っている」と考えているのであれば、前計画に於いて「将来の目安を下回る傾向で推移している」としたものを、いかにして反転させるのか、その具体的な取組手法を示すべきであるし、本計画全体の合理的な整合性を取る意味でもその記載は欠かせない。</p>		
36	<p>本計画が 2030 年度を目標年度としており、その期間が比較的長いことに鑑み、他区で見られるように 2024～25 年度辺りを目途に「中間目標」を設定すべきである。もし、敢えて中間目標をどうしても設定しないということであれば、その合理的根拠を区民に示し、説明責任を果たすべきである。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
37	<p>本計画では「水素社会」構築に向けた取組や「水素社会」への貢献の視点が抜け落ちており、理解に苦しむ。水素製造、水素供給、水素利用のそれぞれの段階での事業者等の協業・連携や、区民の理解を深める取り組みなどを</p>	1	<p>本計画第 5 章において区のアクションプランを記載しており、再生可能エネルギー等の利用促進の施策の中で、水素エネルギーの活用を示しています。</p>

	記載すべきである。文京区が「水素社会」に背を向ける、あるいは否定するのであれば、その合理的根拠を区民に示し、説明責任を果たすべきである。		
38	本計画全体に対する区民の興味と関心を惹きやすくするため、本計画の方向性等を、分かりやすく、そして親しみやすく表現した「キャッチコピー」を考案し、冒頭で打ち出すべきである。こうした考案努力は文京区職員行動指針「チーム文京スピリット」の精神にも適うものであり、「キャッチコピー」を考案する努力と労力を惜しむのであれば行政の怠慢であると言わざるを得ない。	1	本計画第4章において、「クールアース文京都市ビジョン」として、キャッチコピーを打ち出しています。
39	文京区に於いても、一定規模以上の開発・建設事業が行われる際、区が事業者等に対し、地球環境への配慮を要請する「地球環境配慮制度」(仮称)並びに「地球環境事前協議」(仮称)を導入すべきであり、その方針を本計画にも盛り込むべきである。「地球環境事前協議」(仮称)に応じ合い、あるいは「事前協議」に於いて区の要請を合理的根拠なく受け入れない場合は区長が勧告を行い、勧告に従わない場合は開発業者や事業者らの名前を公表するような条例を併せて制定すべきことも盛り込むべきである。	1	ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。
40	2020(令和2)年までにハウスメーカー等が新築する注文戸建住宅の半数以上で、2030(令和12)年までに新築住宅の平均でZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の実現を目指す」という国の施策と連動する形で、ZEHを含め、長期優良住宅や低炭素建築物の認定申請等件数から割合を算出し	1	ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。

	た新築住宅に占める省エネルギー住宅の割合について、文京区としての2030年度の目標を掲げるべきである。		
41	文京区に於いても、一定規模以上の開発・建設事業が行われる際、開発・建設事業に対し、「地球環境配慮」した具体的な内容を申告させるとともに、その後、その成果を開発・建設事業に自己評価させ、文京区のHPで公表する仕組みを整える方針を打ち出し、本計画にも盛り込むべきである。	1	ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。
42	「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」は「使う」ことにしか焦点を当てておらず、「かしこく創る」という視点が抜け落ちている。文京区はあたかも地球に優しい再生可能エネルギーの導入・利用・普及・促進には関心がないか薄いように映る。他区では再生可能エネルギーの導入・利用・普及・促進に積極的に取り組むなか、文京区民だけ「かしこく使う」のでは文京区民として恥ずかしい限りである。「エネルギーをかしこく創ってかしこく使い、豊かに生きる脱炭素のまち 文京」とすべきである。	1	国等においても、「エネルギーをかしこく使う」について、使う以外の意味合いも含めた表現として使用されています。また、本計画のクールアース文京都市ビジョンの説明においても解説しております。 ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。
43	太陽光・風力・水力・地熱発電への取り組みや、再生可能エネルギーから生み出す熱の利用に関する記載が少ないのは理解に苦しむ。それはまさしく「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」というフレーズにも逆の意味で表れており、文京区は再生可能エネルギーを生み出す、創り出すことに全く関心がなく、いかに「使う」かだけを念頭に置いて	1	国等においても、「エネルギーをかしこく使う」について、使う以外の意味合いも含めた表現として使用されています。また、本計画のクールアース文京都市ビジョンの説明においても解説しております。 ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。

	<p>いるように映るが、これでは文京区民が恥ずかしい思いをする。</p> <p>「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」というフレーズを変えないのであれば、せめて本計画に於いて詳しい説明や解説等を加え、それらに積極的に取り組む姿勢も打ち出すべきである。</p>		
44	<p>「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」というフレーズを使うのであれば、「低炭素まちづくりガイドライン」(仮称)や「低炭素まちづくり指針」(仮称)等を策定し、まちづくりの施策としても取り組む方向性を示し、本計画にも盛り込むべきである。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
45	<p>文京区に於いても、一定規模以上の開発・建設事業が行われる際、開発・建設事業に対し、「地球環境配慮計画書」(仮称)の提出を義務付けるような制度を導入し、その提出状況や制度の運用状況を文京区のHPで公表するようすべきである。また、一定規模以上より小さな開発・建設事業については「地球環境配慮計画書」(仮称)に準じた形の「地球環境配慮概要書」を提出させるなど、建築物の地球環境配慮を推進する方向性を打ち出し、本計画において記載すべきである。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
46	<p>「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」というフレーズを打ち出しているが、そこに「省エネ」の概念は見て取れるものの、「創エネ」や「蓄エネ」の概念が全</p>	1	<p>国等においても、「エネルギーをかしこく使う」について、使う以外の意味合いも含めた表現として使用されています。また、本計画のクールアース文京都市ビジョンの説明においても解説しております。</p> <p>ご指摘いただいた事項については、ご意見と</p>

	<p>くうかがえないのは文京区民として理解に苦しむ。「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」等に積極的に取り組んでいる区市から見れば、文京区のこのフレーズは異様に映るであろう。もしそうであれば文京区民としても恥ずかしい思いをすることになる。「エネルギーをかしこく使う」だけでなく、「エネルギーをかしこく創る」、「エネルギーをかしこく蓄える」という重要性も認識し、その重要性を区民や事業者が共有できるようなフレーズに改めるべきである。</p>		<p>して承ります。</p>
47	<p>文京区が「文教」の区である特徴を生かし、大学等との協業による「環境関連技術開発」や「環境マネジメント」、「環境関連産業創出」に向けた方向性も打ち出し、本計画に於いても記載すべきである。エネルギーは単に賢く使うだけでなく、そこには最適な利用の仕方を考え、実践するという思想があるはずであり、そうした発想で区内の産官学が協働・協治の精神で協業することが大切であり、本計画に盛り込むことで、そうした意識を喚起すべきである。</p>	1	<p>計画の方向性として、主体間の連携・協働による取組は重要であると考えております。今後は、関係各署と連携しながら計画に掲げるアクションプランについて推進してまいります。</p>
48	<p>「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」というフレーズを打ち出しているが、そこには「貢献する」「役立つ」という意味においては消極的な側面しか含まれておらず、嘆かわしいと感じずにはいられない。もっと、積極的に地球環境問題に関与し、取り組もうと思えるような「創る」「創り出す」「挑む」といったニュアンスを表現すべきであり、文京区の未来を担う子どもたちに対して</p>	1	<p>国等においても、「エネルギーをかしこく使う」について、使う以外の意味合いも含めた表現として使用されています。また、本計画のクールアース文京都市ビジョンの説明においても解説しております。</p> <p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>教育上も歓迎しかねるフレーズである。</p> <p>エネルギーは文京区外の人が創り、文京区民は「使う人」であるのだろうか。行政としてそうした印象を与えかねないフレーズを打ち出すことが正しいのだろうか。全国の他の自治体、あるいは文京区以外の全ての国民はこのフレーズを見て納得できるだろうか。</p> <p>文京区全体への貢献と共に、日本全体、世界全体、地球全体の貢献につながるようなフレーズに改めるべきである。</p>		
49	<p>「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」というフレーズが文京区に於ける「環境教育」や「環境学習」に役立つとは思えないし、逆に足を引っ張ると深く憂慮せざるを得ない。少なくとも自分の子供にこうしたフレーズを見せたくないし、聞かせたくない。「エネルギーをかしこく創り、かしこく蓄え、かしこく使って豊かに生きる」なら理解できないでもないが、あまりに自己本位で他者目線に欠け、周囲への配慮に欠けると言わざるを得ない。</p>	1	<p>国等においても、「エネルギーをかしこく使う」について、使う以外の意味合いも含めた表現として使用されています。また、本計画のクールアース文京都市ビジョンの説明においても解説しております。</p> <p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
50	<p>「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」というフレーズには次世代エネルギー等の導入推進や未利用エネルギーの活用などの視点が含まれておらず理解に苦しむ。これが「キャッチコピー」であるかどうか措くとしても、次世代エネルギー等の導入推進や未利用エネルギーの活用にも前向きに取り組む姿</p>	1	<p>国等においても、「エネルギーをかしこく使う」について、使う以外の意味合いも含めた表現として使用されています。また、本計画のクールアース文京都市ビジョンの説明においても解説しております。</p> <p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	勢がうかがえるフレーズにすべきであって、「創出する」「開発する」といったイメージが全く感じられないフレーズは文京区民に対する評価を貶めることにもつながりかねないので改めるべきである。		
51	アクションプラン5は温暖化が招いた結果に対する対応であるので温室効果ガス削減には直接寄与しない。原因への対策が解決しないまま徒に目標値が達成されてしまうため分けて考えた方が良い。	1	ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。
52	本計画全体を通じて、文京区が全国自治体の先駆けとなる取組がどこにあるのか全く分からないのは文京区民として恥ずかしい限りである。理念でも方針でも方向性の記載でも構わないし、具体的な事業でも構わないが、全国に先駆けて取り組む先進事例を盛り込むべきであるし、盛り込んでいるのであればその旨を明記すべきである。(※全国自治体の先駆けとなる取組と言ってもあくまで文京区に相応しいという前提条件があることは言うまでもない)	1	「広域連携による再生可能エネルギー利活用の調査・検討」等、区として新しい取組を掲げております。
53	高層建築物が増えた影響で日照時間が減り、太陽光発電の効果が減ってきている。 冬場の日照時間が減ったため暖房使用時間も増え、またコンクリート建築が昼間の太陽熱を蓄熱するため、熱帯夜が増えて冷房使用時間も増加している。 低中層木造建築物を増やしていく施策を行った方がいい。 さらにZEBやZEHを促進させると新築需要が増し、スクラップアンドビル	1	ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。

	<p>ドを誘発させ、環境負荷が増してしまう。</p> <p>既存の建物をリフォーム、リノベーションする施策に力を入れた方がよい。</p>		
54	<p>自転車利用促進のために、駐輪場確保についてより具体的な記載をすべき。</p> <p>駐輪や走行等のマナーを守った上で、の自動車利用促進が第一と考えます。</p> <p>一方で、自転車利用者としては、有料駐輪場をあてにして出かけたのに満車で止められないことや、そもそも駐輪場がない箇所が多くあるために、放置自転車として撤去されることを心配して自転車利用を躊躇することが多くある。</p> <p>自転車利用者としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放置自転車を取り締まるべき場所に、重点的に一時利用有料駐輪場を整備する。 <p>(駐輪場を整備したうえで、取り締まる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道走行が危ない場所では、自転車走行空間を整備する。 <p>(走行空間を適切に整備した上で、指導する)</p> <p>など、バランスを考えた施策を実施してほしい。</p> <p>また、計画への記載には及ばないが、多様な働き方が進む昨今、月額制駐輪場を一時利用システムに変更していくこともご検討いただければと思う。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
55	<p>事業所における省エネルギー推進のために、エコチューニング推進を明記すべき。</p> <p>事業所における省エネルギーには、新築建築時の取り組み、設備更新・導入などハード面の対策とともに、低コストで実施できる診断・チューニング等</p>	1	<p>計画の方向性として、主体間の連携・協働による取組は重要であると考えております。今後は、関係各署と連携しながら計画に掲げるアクションプランについて推進してまいります。</p>

	<p>のエネルギー管理が有効とされている。</p> <p>P31 に、BEMS 等のエネルギー管理や省エネ診断利用について記載されていますが、小規模事業所への BEMS 導入は難しく、省エネ診断結果を踏まえたエコチューニングが有効である。エコチューニングについては、国の地球温暖化対策計画や地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアルにある環境配慮契約基本方針にも言及されており、文京区としても、率先行動、事業者の取り組み推進策として検討すべきと考える。</p>		
56	<p>ナッジの掲載事例の見直しの提案。</p> <p>P51 でのナッジの紹介が、情報提供・啓発活動の延長のような事例にとどまっているのが残念である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理を取りすぎないように工夫されたバイキング食器を使用して食品ロスを減らす ・ユニークなごみ箱を設置し、ごみのポイ捨てをなくす <p>といった事例の方が、ここでは有効かと考える。工夫をお願いします。</p>	1	<p>本計画では省エネルギーにより関連深い例を示しています。今後、関係各課とも情報共有を行い、周知啓発を行っていきます。</p>
57	<p>文京区全体のみどりによる 1 年間の CO2 吸収量を試算し、本計画でもその目標を設定すべきである。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
58	<p>「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」が本計画における「キャッチコピー」に当たるのかどうか不明であるが、「かしこく使う」はあくまで「浪費しない」「無駄に使わない」の言い換えであって、「浪費」や「無駄」に比べれば、エネルギーの節約効果は見込まれるが、「削減」</p>	1	<p>国等においても、「エネルギーをかしこく使う」について、使う以外の意味合いも含めた表現として使用されています。また、本計画のクールアース文京都市ビジョンの説明においても解説しています。</p> <p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

	<p>とは異なる。</p> <p>今、世界に求められているのは「削減」であり、それも「積極的な削減」であり、そうした社会的要請に鑑みれば、「エネルギーをかしこく使って」はあまりに消極的であり、後ろ向きであると言わざるを得ない。</p> <p>文京区民がこのフレーズを真に受けて「エネルギーをかしこく使」えばいいと間違いしてしまうことは恐ろしいことであり、文京区民を世界常識から隔絶することにもつながりかねない。文京区民・事業者等に対し、積極的に「削減」に取り組むことの重要性を認識し、自発的に意欲的に取り組むことを促すようなスローガンに改めるべきである。</p>		
59	<p>文京区においても、電力消費が関係する部門（家庭部門、産業部門、運輸部門他）で電力排出係数の改善を見込む場合の「温室効果ガス」と「CO2の排出量」を参考値で構わないので、本計画で記載すべきである。</p>	1	<p>将来の排出係数を見通すことは困難であるため、本計画における記載は難しいと考えます。</p>
60	<p>「エネルギーをかしこく使って豊かに生きる脱炭素のまち 文京～ちいさな一歩で未来へつなごう～」というのであれば、家庭部門でのエネルギー消費削減の取り組みを文京区全体で実施した場合の効果の推計を算出し、本計画で記載すべきである。また、2030年度における効果（削減量や削減率）がどのくらい見込まれるのかも記載することで、一人ひとりが取り組むことで得られる効果は小さくとも、多くの区民がみんなで行き届くことにより、CO2の削減に向けて大きな効果が得られることを示し、文京区民の共通認識となるよう努めるべきである。</p>	1	<p>2030年度における二酸化炭素排出削減量については、本計画の二酸化炭素排出削減目標として示しています。また、クールアース文京都市ビジョン等においても、目標達成のためには、区民を含めて各主体で一つ一つ取組を積み重ねていくことを示しており、今後も周知・啓発を行ってまいります。</p>

61	<p>2020（令和2）年までにハウスメーカー等が新築する注文戸建住宅の半数以上で、2030（令和12）年までに新築住宅の平均でZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の実現を目指す」という国の施策と連動する形で、ZEHを含め、長期優良住宅や低炭素建築物の認定申請等件数から割合を算出した新築住宅に占める省エネルギー住宅の割合について、文京区としての2030年度の目標を掲げるべきである。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
62	<p>養蜂を利用して、地域住民が自然の重要性を知れるようにしてほしい。</p> <p>例：小学校や中学校で養蜂活動を実施し、「本郷養蜂プロジェクト」として、地域の産品である蜂蜜を生産する。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
63	<p>1 情報気候危機についての認識を高めるため、情報を流通させる。</p> <p>2 定期意見交換会をひらく。</p> <p>一部大学生だけからではなく、広く社会人からも。1回だけでなく、何回も。</p> <p>3 教育に必ず気候危機関連授業を入れるようにする。</p> <p>体験的、視覚的な教材調達には個人差、学校差が生じ得るので区が率先してアウトソーシングをしながら援助する。</p> <p>小学校卒業までに1回、中学卒業までに1回など受講を義務付けが難しければ公の講座として広く何回も様々なテーマで実施する。</p> <p>何校か合同で開いても良いように指導、仲介。</p> <p>4 パネルや広報などでアート作品を紹介する。気候危機が進めばどうなるかということに関しては海外ですすでにアート作品（絵画、インスタレーシ</p>	1	<p>計画改定後は、本計画における理念や考え方を区内に周知・啓発していきます。</p> <p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>

<p>ョン)が豊富。</p> <p>5 災害時対応計画を見直す。見直し基準は、気候危機。その影響を見越した変動を考慮して再策定、再配布。その時、情報として気候危機の影響に関するデータを2つだけ添える。(多すぎる情報は捨てられる) 排出ガスの内容と影響、および海洋汚染につながるマイクロプラスチックについて。</p> <p>この2点は生活に身近。</p> <p>6 スーパーや生協などに文京区で得られる助成金一覧表を置くなどもっと身近なトピックにしていかないと浸透しない。</p> <p>7 CO2 排出削減を主な目標に掲げているが、ペットボトルなどマイクロプラスチックの影響についてもっと告知する必要がある。</p> <p>リサイクルすればそれで安心というものでもない。</p> <p>まとめ</p> <p>情報はコンパクトに分割編集、流通しやすい場所で配布、取れるようにする。</p> <p>教育の機会を圧倒的に増やす。学校ベースのみならず、一般講座としてもまた無料のイベントとしても。</p> <p>アートのメッセージ力を活用する。公募も良い。気候危機をテーマにしたアート作品の公募は募集するだけで啓蒙的。</p> <p>レジ袋が有料化された後のフォローが必要。</p> <p>都市でできるコンポスト講座、合わせてカラス対策などトータルな暮らし方を見直すきっかけをさまざまな側面から常時提供し続けることが肝要かと思う。</p>		
---	--	--

64	<p>文京区の取り組みが分かりやすくまとめてあり、文京区が環境問題への意識が高いことがわかった。さらに文京区が好きになった。</p> <p>ごみの量が年々減っているのは驚いた。</p> <p>しかし二酸化炭素量は減少し続けなくてはならない。区民との連携が大事だと思う。また、増加してしまった原因を突き止め、それを踏まえた改善策が必要だと思う。</p> <p>アクションプランが抽象的のよう感じた。「〇〇という取り組みが重要です」とあるが、それをどうやって行うのが重要だとおもう。</p> <p>文京区地球温暖化対策地域推進計画のないようではないが、環境計画がまとめたPDFを拝見した。核心をついた内容で、文京区民全員に見てほしいと感じた。環境問題は内容が複雑で面白くないと思うが、教科書のようにまとめてあり日頃の研究の参考になった。</p> <p>提案ではあるが、より環境問題の危機感、認知度を高めるには区立の学校と強固に連携し、授業を行うなどすることが効果的ではないか。</p>	1	<p>ご指摘いただいた事項については、ご意見として承ります。</p>
----	--	---	------------------------------------